

海と漁業を科学するプロジェクト

閉鎖循環型陸上養殖事業の推移

閉鎖循環型陸上養殖推進協議会（仮称）設立へ

6月で閉鎖循環型陸上養殖事業に着手してから1年を迎えました。本事業では、近年の海洋状況の変化の影響による主要魚種の漁獲低迷を背景に、1年目で得られた知見・データを基に持続可能な水産業の確立を目指しています。事業の取り組み状況と今後の予定についてお知らせします。

令和6年度の事業経過

令和6年6月：閉鎖循環型陸上養殖システムの整備

- ・町内の水産加工場跡地に簡易型の閉鎖循環型システムを整備し、稼働させました。また養殖魚種には、資源量が減少傾向にある「ホッケ」を選定しました。



令和6年6月下旬：ホッケの飼育管理を開始

- ・道栽培漁業振興公社伊達センターで生産された人工ホッケといぶり中央漁協から提供いただいた天然ホッケをもとに飼育を開始しました。
- ☞陸上養殖においても、ホッケの飼育が可能であることが明らかとなりました。

令和6年9月～12月：種苗生産試験の実施（採卵～ふ化）

- ・秋にホッケの成熟が確認され、受精作業を実施した結果、受精率は95%以上となりました。
- ・その後、受精卵から42日目でふ化も確認されました。
- ☞陸上養殖においてもホッケを成熟させることや受精卵をふ化させることが可能であることが分かりました。

